

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	387050162
法人名	株式会社 セイフティー東予
事業所名	グループホーム 竹トンボ
所在地	愛媛県新居浜市落神町3番11号
自己評価作成日	平成22年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 3 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議のメンバーとの話し合いの中から地域と共に色々な行事等に参加したり地域の方々に施設での行事にもさんかしていただい地域の中に馴染めるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

落ち着いたゆったりとした平屋建て2ユニットのホームである。利用者一人ひとりの様々な思いに応え、変わらない生活を提供することで、利用者は表情も行動も豊かに生活を送っている。利用者のできることに着目し、それを活かした支援を心がけている。地域との交流にも積極的に取り組み、地域の一員としての位置づけを獲得しつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 竹トンボ

(ユニット名) コスモス

記入者(管理者)

氏名 横川 崇

評価完了日 22年 2月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎回のフロア会のレジメに記載し、またトイレにも掲示し理念を念頭においての支援を心がけている。理念を念頭にケアプラン実行に繋げている。	
			(外部評価) 『日々是好日』という理念を掲げ、「充実した楽しい日々を過ごしてほしい、今日辛いことがあっても楽しい明日につながっている」という思いを共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーを中心に施設での夏祭りや餅つき、校区の夏祭りや地方祭や文化祭にも参加し交流を図っている。また、地元自治会にも加入し般若入れや廃品回収にも参加している。	
			(外部評価) ホーム主催の夏祭りには地域の方が多数参加してくれ、地域コミュニティの拠点のようになっている。餅つきにも地域からの応援参加があり、地域の高齢者にも配っている。行事への参加を通してホームを訪れやすくなったと好評である。今後も利用者が主役になれる交流をすすめる予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方に直接理解や支援の方法を発信はしていないがお餅つき後に地域の高齢者住宅にお餅を配ってまわり竹トンボの存在を知って頂けるよう行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議のメンバーを中心に施設での夏祭りや餅つき、校区の夏祭りや地方祭や文化祭にも参加し交流を図っている。また、その会の内容をフロア会でも話し合い外出行事等に活かしている。	
			(外部評価) 多方面から多くの方に参加してもらい、2か月に1回開催している。ホームの運営状況や行事報告等を行い、意見・情報交換している。特に行事について協力体制をとっている。	ホームとしての地域の範囲をどう捉えるかについて再考し、日常生活とつながる地域の住民、利用者本人、家族、職員等もメンバーに加え、気軽に意見交換を行いながらさらに会議をサービスの質の向上に活かしていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の職員の方も運営推進会議にも参加していただいたり毎月メールなどで待機者状況の報告や連絡、相談なども行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加してもらっただけでなく、担当課とは日頃から、メールも活用して細部にわたり情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 実際例はなく施錠なども行ってはいない。身体拘束は絶対にしないと言う施設の方針はフロア会でも話し合っている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアの徹底を図るよう、研修を重ねている。身体拘束に留まらず、心理的拘束についても配慮し、言葉による拘束をしていないか常に注意し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 書面での高齢者虐待について説明し、絶対に行ってはいけないよう勤めている。言葉使いを特に懸念し、徹底するように指導している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 昨年度に研修に参加しフロア会で説明は行ったが活用はしていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書を使用し御家族の理解と承諾を得てから契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族アンケートなどを行い想いや意見などをフロア会や運営推進会議等で話し合い改善・検討を行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議への参加時やホームへの来訪時に声をかけたり、月に1回は手紙を送って家族の意見を聞くようにしている。現在のところまだ実現には至っていないが、家族会の立ち上げについても呼びかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 個人面接を行い個々の長所や短所、目標や悩みを聞き相談を行い個々の課題についても話し合っている。また、フロア会などでも意見あればよく検討し反映させている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、フロア会等で職員が自由に意見を出せるよう常に働きかけている。また、年1回は個別面談の機会を設けて意見を聞き、運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 個々の仕事も現場の中でよく観て長所・短所を個人面接の場で話し合い個々の考えなどを聞き運営者に相談している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 個々の仕事も現場の中でよく観て長所・短所を個人面接の場で話し合い個々の考えなどを聞き運営者に相談している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 個々の課題に合うような研修に参加して頂くように心掛けている。また、資格試験もチャレンジするよう進めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 個々に担当者を配置し、本人の利用が安心できるよう支援している</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所事前面接にて家族の悩みや入所後の希望や想いを聞くように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所事前面接で本人の意向も聞き身体・精神状況を含めて何が本人にとって必要かを考察し支援している。また、ケアマネや以前利用されていた事業所や病院があれば電話にて状況を聞くようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の出来る、出来ないを見極めて出来る事は自分で行っていただき出来ない事はさりげなく支援するように心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院受診などして頂ける家族には出来る限りお願いしたり行事などへの参加も促す用になっている。また、面会時には近況や状態説明も行う様にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望があれば理容店に行ったり来て頂いたりもしています。買い物時に自分の家の近く通る時に寄って見たりもしています。 (外部評価) 利用者は在宅、ケアハウス、病院等からホームに来るが、関係者からの情報だけに頼ることなく、事前に利用者の生活している場に出かけて、生活全体を実際に見て感じ取り、ホームでの生活につなげていくようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) コミュニケーションが不足されている方は職員が間に入り関係を作り気の合う入居者同士はお風呂にも一緒に入ったりもされている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も依頼あれば相談を受けたりし、退院後に再度入居された入居者も居られる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来る限り在宅で過ごされていた生活パターンや趣味などを活かすようにしているが全員とは言えないと思う。しかし困難な場合にはご家族の意向を取り入れたケアを行っている。 (外部評価) 利用者本人に「どういうことをしてきたか、なにがしたいか、困っていることは何なのか」等をゆっくり丁寧に聞き、家族にも確認して把握し、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴や習慣趣味など本人から又、御家族様から情報を取り入れて生活の中で活かせる様に勤めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方をADLが高い方は在宅での生活パターンを維持していただき出来る限り自由に過ごして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回ケア目標について話し合い3ヶ月に一度は見直しを行っている。出来る限り本人・家族の意見を反映し身心の変化や状況に応じて随時見直している。 (外部評価) 項目ごとの評価を毎日行い、担当者が月ごとにまとめている。それを基に3か月に1回計画作成担当者が計画を見直し、フロア会で職員や家族の意見等も加え、生活リハビリを中心に置いた具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常会話や入居者の思いや生活習慣を観察しながら毎日の記録を書きその中から現在必要なケアをフロア会などでも話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 先日ある入居者からたまには温泉にでも生きたいと言う声から6名の方が温泉に行かれました。他の介護サービス利用には繋がってはいません。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 病院、店、公園、公共施設などを把握し外出の機会を持ちながら安全で豊かな暮らしができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医ある方は継続し定期受診行っている。また必要 時、緊急時には迅速に受診を行うようにしている。 (外部評価) 職員が同行し、本人及び家族の希望するかかりつけ医 の受診を支援している。日常の健康管理は協力医療機 関に依頼し、必要に応じて往診にも対応してもらえる 体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場に看護職員は配置しておらず、また訪問看護師と の連携も取れていません。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には家族・医療機関との話し合いを設けて頂き た退院計画を随時するよう努めています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアは行ってはいないが重度化された入居 者には随時電話連絡したり月一回の手紙に書いたりし て報告し今後の方針や施設としての考えを相談するよ うにしている。 (外部評価) ホームとしての指針は作成していないが、医療行為が 必要な状態であれば可能な限り対応し、食事の経口 摂取が困難になれば医師、家族等と話し合っその都 度方向性を共有して取り組んでいる。	医療関係者と連携し、職員でも話し合っ自分たちの 力量を確認し、ホームとしての重度化及び看取りに関 する指針を作成することが望ましい。さらに、指針を 踏まえて常に本人や家族の状況の変化に応じて話し合 いを繰り返す仕組みを構築していくことを期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員の入れ替えが多く全ての職員とは言えないが定期的に緊急時の対応はフロア会等で話し合ったり避難訓練、火災訓練も定期的に行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練、火災訓練は消防計画に添っても定期的に行っている。また、地域の防災組織にも加入し防災委員でもある。近隣の住宅からの応援体制も図っている。 (外部評価) 消防署の指導のもと、様々な災害を想定した訓練を実施している。運営推進会議での提案から、近隣住民も参加しての訓練も実施している。地域の自主防災組織の中にも組み込んでもらい、地域との連携を図って災害への備えに取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりにあった声かけを行うよう心がけているが方言交じりの声かけが見られることが多く毎回のフロア会の議題にしている。 (外部評価) 利用者の尊厳を損ねることのないよう、声かけには細心の注意を払い、居室、トイレ、浴室などプライベートな空間での関わりには特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 献立や今日のレク等の希望を聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り行っているが毎日とは言えないと思う	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) お化粧されたりマニキュアさらたりしている方や散髪は理容師に来ていただいて希望の髪形をされています。また、馴染みの美容師さんが来られてカットされている方もいます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの希望聞くも同じ物かあまり希望がない方が多い(遠慮されているかもしれないが)準備や後片付けは一人ひとりにあった役割をこなして頂いている。	
			(外部評価) 元漁師の利用者に魚をおろしてもらったり、配膳、片付け等できることを一緒にすることで、会話が弾む楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスは何ヶ月かに管理栄養士の先生に相談している。一人ひとりによって水分補給や補助栄養食も取り入れたり形態も変えている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に洗面所にて口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はトイレで排泄を心がけ随時のトイレ誘導介助を行い排泄していただいている。その為トイレでの立位保持の為の訓練もプランに取り入れている。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄パターンを把握したうえで、個別に声かけやトイレ誘導を行っており、全員トイレでの排泄ができています。日中はオムツを使う利用者はおらず、パッドや紙パンツの種類にも気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防には乳製品や果物、食物繊維などを取り入れそれでも排便ない方は医師相談し個々にあった緩下剤服用にて排泄促している	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は毎日行っているが介助必要な方は2人介助にて午前中にゆっくりと入浴していただいている。基本的には午後からの入浴で以前夜希望があった時は夜間浴も行っていたが現在は希望者はいません。	
			(外部評価) 2名での介助が必要な利用者については、職員の勤務体制が充実している午前中に入ってもらっている。声かけのタイミングを工夫することでほとんどの方が毎日入浴している。入浴中は気持ちが安らぎ、心を開いているいろいろな話ができる大切な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ソファや自室などで昼夜逆転がない方は自由に休息されていたり中庭で日光浴されて身体を癒されている方も居ます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々に内服表をファイルにまとめて把握に努めている。また、定期受診時に状態報告を主治医に行い内服調整も行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る出来ないを把握し個々にあった役割を行っていただいています。また畑など昔からやっていた事を継続できるよう竹トンボでも職員と一緒に野菜作りや草引きなども行ったり趣味で糸の網物やカラオケなども対応している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 敷地内のみは自由に出でいただいているがそれ以上は体調面を考慮しながら付き添っている。	
			(外部評価) 日常的にはゴミ捨て、畑の水やりをしたり、車いすの方も一緒にホーム周辺の散歩を楽しんでいる。車でドライブや買い物にも出かけ、また、花見、果物狩り、日帰り温泉旅行、初詣、外食、忘年会等多くのレクリエーションを取り入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 出来る方はお金もたれているが使う頻度は少ないと思う。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は掛かってくれば取り繋ぎ、希望あれば掛けてあげている。手紙は年賀状や暑中見舞いは御家族に出来る限り自筆にて書いて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 当たり前ものを当たり前置き生活観があるように心がけている。共用空間では蛍光灯ではなくダウンライトで自然な明るさにしている。</p> <p>(外部評価) オール電化のオープンキッチンと、バリアフリーで広々とした居間が真ん中にあり、十分な広さの畳コーナーもある。職員が常に居る居間や事務室から全居室を見守ることができる造りになっており、利用者は安心してゆったりと過ごすことができている。手摺りを配した居間の周囲を利用して歩行練習をすることもできる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 各所にソファやベンチ、中庭や和室にて一人で過ごせる空間がある。又居室にソファ置かれ入居者同士談笑される事もある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は刃物、火気の物意外は自由に持ち込んでもらっている。洋室であるが布団好まれる方はベッドを除けて床にカーペットを敷き過ごされている方もいます。</p> <p>(外部評価) ソファや机、テレビを置き、家族の写真や思い出の手作りの品等を飾るなど、利用者一人ひとり趣のある居室となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 自室前には写真や名札を掲示し自室の理解を得ている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	387050162
法人名	株式会社 セイフティー東予
事業所名	グループホーム 竹トンボ
所在地	愛媛県新居浜市落神町3番11号
自己評価作成日	平成22年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 3 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議のメンバーとの話し合いの中から地域と共に色々な行事等に参加したり地域の方々に施設での行事にも参加していただいて地域の中に馴染めるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

落ち着いたゆったりとした平屋建て2ユニットのホームである。利用者一人ひとりの様々な思いに応え、変わらない生活を提供することで、利用者は表情も行動も豊かに生活を送っている。利用者のできることに着目し、それを活かした支援を心がけている。地域との交流にも積極的に取り組み、地域の一員としての位置づけを獲得しつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 竹トンボ

(ユニット名) 菜の花

記入者(管理者)
氏名 横川 崇

評価完了日 22年 2月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎回のフロア会のレジメに記載し、またトイレにも掲示し理念を念頭においての支援を心がけている。理念を念頭にケアプラン実行に繋げている。	
			(外部評価) 『日々是好日』という理念を掲げ、「充実した楽しい日々を過ごしてほしい、今日辛いことがあっても楽しい明日につながっている」という思いを共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーを中心に施設での夏祭りや餅つき、校区の夏祭りや地方祭や文化祭にも参加し交流を図っている。また、地元自治会にも加入し般若入れや廃品回収にも参加している。	
			(外部評価) ホーム主催の夏祭りには地域の方が多数参加してくれ、地域コミュニティの拠点のようになってきている。餅つきにも地域からの応援参加があり、地域の高齢者にも配っている。行事への参加を通してホームを訪れやすくなったと好評である。今後も利用者が主役になれる交流をすすめる予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方に直接理解や支援の方法を発信はしていないがお餅つき後に地域の高齢者住宅にお餅を配ってまわり竹トンボの存在を知って頂けるよう行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議のメンバーを中心に施設での夏祭りや餅つき、校区の夏祭りや地方祭や文化祭にも参加し交流を図っている。また、その会の内容をフロア会でも話し合い外出行事等に活かしている。	
			(外部評価) 多方面から多くの方に参加してもらい、2か月に1回開催している。ホームの運営状況や行事報告等を行い、意見・情報交換している。特に行事について協力体制をとっている。	ホームとしての地域の範囲をどう捉えるかについて再考し、日常生活とつながる地域の住民、利用者本人、家族、職員等もメンバーに加え、気軽に意見交換を行いながらさらに会議をサービスの質の向上に活かしていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の職員の方も運営推進会議にも参加していただいたり毎月メールなどで待機者状況の報告や連絡、相談なども行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加してもらっただけでなく、担当課とは日頃から、メールも活用して細部にわたり情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 実際例はなく施錠なども行ってはいない。身体拘束は絶対にしないと言う施設の方針はフロア会でも話し合っている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアの徹底を図るよう、研修を重ねている。身体拘束に留まらず、心理的拘束についても配慮し、言葉による拘束をしていないか常に注意し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 書面での高齢者虐待について説明し、絶対に行ってはいけないよう勤めている。言葉使いを特に懸念し、徹底するように指導している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 昨年度に研修に参加しフロア会で説明は行ったが活用はしていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書を使用し御家族の理解と承諾を得てから契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族アンケートなどを行い想いや意見などをフロア会や運営推進会議等で話し合い改善・検討を行っている。 (外部評価) 運営推進会議への参加時やホームへの来訪時に声をかけたり、月に1回は手紙を送って家族の意見を聞くようにしている。現在のところまだ実現には至っていないが、家族会の立ち上げについても呼びかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 個人面接を行い個々の長所や短所、目標や悩みを聞き相談を行い個々の課題についても話し合っている。また、フロア会などでも意見あればよく検討し反映させている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、フロア会等で職員が自由に意見を出せるよう常に働きかけている。また、年1回は個別面談の機会を設けて意見を聞き、運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 個々の仕事も現場の中でよく観て長所・短所を個人面接の場で話し合い個々の考えなどを聞き運営者に相談している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 個々の仕事も現場の中でよく観て長所・短所を個人面接の場で話し合い個々の考えなどを聞き運営者に相談している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 個々の課題に合うような研修に参加して頂くように心掛けている。また、資格試験もチャレンジするよう進めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 個々に担当者を配置し、本人の利用が安心できるよう支援している</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所事前面接にて家族の悩みや入所後の希望や想いを聞くように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所事前面接で本人の意向も聞き身体・精神状況を含めて何が本人にとって必要かを考察し支援している。また、ケアマネや以前利用されていた事業所や病院があれば電話にて状況を聞くようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の出来る、出来ないを見極めて出来る事は自分で行っていただき出来ない事はさりげなく支援するように心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院受診などして頂ける家族には出来る限りお願いしたり行事などへの参加も促す用になっている。また、面会時には近況や状態説明も行う様にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望があれば理容店に行ったり来て頂いたりもしています。買い物時に自分の家の近く通る時に寄って見たりもしています。 (外部評価) 利用者は在宅、ケアハウス、病院等からホームに来るが、関係者からの情報だけに頼ることなく、事前に利用者の生活している場に出かけて、生活全体を実際に見て感じ取り、ホームでの生活につなげていくようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) コミュニケーションが不足されている方は職員が間に入り関係を作り気の合う入居者同士はお風呂にも一緒に入ったりもされている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も依頼あれば相談を受けたりし、退院後に再度入居された入居者も居られる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来る限り在宅で過ごされていた生活パターンや趣味などを活かすようにしているが全員とは言えないと思う。しかし困難な場合にはご家族の意向を取り入れたケアを行っている。 (外部評価) 利用者本人に「どういうことをしてきたか、なにがしたいか、困っていることは何なのか」等をゆっくり丁寧に聞き、家族にも確認して把握し、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴や習慣趣味など本人から又、御家族様から情報を取り入れて生活の中で活かせる様に勤めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方をADLが高い方は在宅での生活パターンを維持していただき出来る限り自由に過ごして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回ケア目標について話し合い3ヶ月に一度は見直しを行っている。出来る限り本人・家族の意見を反映し身心の変化や状況に応じて随時見直している。 (外部評価) 項目ごとの評価を毎日行い、担当者が月ごとにまとめている。それを基に3か月に1回計画作成担当者が計画を見直し、フロア会で職員や家族の意見等も加え、生活リハビリを中心に置いた具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常会話や入居者の思いや生活習慣を観察しながら毎日の記録を書きその中から現在必要なケアをフロア会などでも話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 先日ある入居者からたまには温泉にでも生きたいと言う声から6名の方が温泉に行かれました。他の介護サービス利用には繋がってはいません。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 病院、店、公園、公共施設などを把握し外出の機会を持ちながら安全で豊かな暮らしができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医ある方は継続し定期受診行っている。また必要 時、緊急時には迅速に受診を行うようにしている。 (外部評価) 職員が同行し、本人及び家族の希望するかかりつけ医 の受診を支援している。日常の健康管理は協力医療機 関に依頼し、必要に応じて往診にも対応してもらえる 体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場に看護職員は配置しておらず、また訪問看護師と の連携も取れていません。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には家族・医療機関との話し合いを設けて頂き た退院計画を随時するよう努めています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアは行ってはいないが重度化された入居 者には随時電話連絡したり月一回の手紙に書いたりし て報告し今後の方針や施設としての考えを相談するよ うにしている。 (外部評価) ホームとしての指針は作成していないが、医療行為が 必要な状態であれば可能な限り対応し、食事の経口 摂取が困難になれば医師、家族等と話し合っその都 度方向性を共有して取り組んでいる。	医療関係者と連携し、職員でも話し合っ自分たちの 力量を確認し、ホームとしての重度化及び看取りに関 する指針を作成することが望ましい。さらに、指針を 踏まえて常に本人や家族の状況の変化に応じて話し合 いを繰り返す仕組みを構築していくことを期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員の入れ替えが多く全ての職員とは言えないが定期的に緊急時の対応はフロア会等で話し合ったり避難訓練、火災訓練も定期的に行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練、火災訓練は消防計画に添っても定期的に行っている。また、地域の防災組織にも加入し防災委員でもある。近隣の住宅からの応援体制も図っている。 (外部評価) 消防署の指導のもと、様々な災害を想定した訓練を実施している。運営推進会議での提案から、近隣住民も参加しての訓練も実施している。地域の自主防災組織の中にも組み込んでもらい、地域との連携を図って災害への備えに取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりにあった声かけを行うよう心がけているが方言交じりの声かけが見られることが多く毎回のフロア会の議題にしている。 (外部評価) 利用者の尊厳を損ねることのないよう、声かけには細心の注意を払い、居室、トイレ、浴室などプライベートな空間での関わりには特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 献立や今日のレク等の希望を聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り行っているが毎日とは言えないと思う	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) お化粧されたりマニキュアさらたりしている方や散髪は理容師に来ていただいて希望の髪形をされています。また、馴染みの美容師さんが来られてカットされている方もいます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの希望聞くも同じ物かあまり希望がない方が多い(遠慮されているかもしれないが)準備や後片付けは一人ひとりにあった役割をこなして頂いている。 (外部評価) 元漁師の利用者に魚をおろしてもらったり、配膳、片付け等できることを一緒にすることで、会話が弾む楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスは何ヶ月かに管理栄養士の先生に相談している。一人ひとりによって水分補給や補助栄養食も取り入れたり形態も変えている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に洗面所にて口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はトイレで排泄を心がけ随時のトイレ誘導介助を行い排泄していただいている。その為トイレでの立位保持の為の訓練もプランに取り入れている。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄パターンを把握したうえで、個別に声かけやトイレ誘導を行っており、全員トイレでの排泄ができています。日中はオムツを使う利用者はおらず、パッドや紙パンツの種類にも気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防には乳製品や果物、食物繊維などを取り入れそれでも排便ない方は医師相談し個々にあった緩下剤服用にて排泄促している	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は毎日行っているが介助必要な方は2人介助にて午前中にゆっくりと入浴していただいている。基本的には午後からの入浴で以前夜希望があった時は夜間浴も行っていたが現在は希望者はいません。	
			(外部評価) 2名での介助が必要な利用者については、職員の勤務体制が充実している午前中に入ってもらっている。声かけのタイミングを工夫することでほとんどの方が毎日入浴している。入浴中は気持ちが安らぎ、心を開いているいろいろな話ができる大切な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ソファや自室などで昼夜逆転がない方は自由に休息されていたり中庭で日光浴されて身体を癒されている方も居ます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々に内服表をファイルにまとめて把握に努めている。また、定期受診時に状態報告を主治医に行い内服調整も行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る出来ないを把握し個々にあった役割を行っていただいています。また畑など昔からやっていた事を継続できるよう竹トンボでも職員と一緒に野菜作りや草引きなども行ったり趣味で糸の網物やカラオケなども対応している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 敷地内のみは自由に出でいただいているがそれ以上は体調面を考慮しながら付き添っている。	
			(外部評価) 日常的にはゴミ捨て、畑の水やりをしたり、車いすの方も一緒にホーム周辺の散歩を楽しんでいる。車でドライブや買い物にも出かけ、また、花見、果物狩り、日帰り温泉旅行、初詣、外食、忘年会等多くのレクリエーションを取り入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 出来る方はお金もたれているが使う頻度は少ないと思う。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は掛かってくれば取り繋ぎ、希望あれば掛けてあげている。手紙は年賀状や暑中見舞いは御家族に出来る限り自筆にて書いて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 当たり前ものを当たり前置き生活観があるように心がけている。共用空間では蛍光灯ではなくダウンライトで自然な明るさにしている。</p> <p>(外部評価) オール電化のオープンキッチンと、バリアフリーで広々とした居間が真ん中にあり、十分な広さの畳コーナーもある。職員が常に居る居間や事務室から全居室を見守ることができる造りになっており、利用者は安心してゆったりと過ごすことができている。手摺りを配した居間の周囲を利用して歩行練習をすることもできる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 各所にソファやベンチ、中庭や和室にて一人で過ごせる空間がある。又居室にソファ置かれ入居者同士談笑される事もある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は刃物、火気の物意外は自由に持ち込んでもらっている。洋室であるが布団好まれる方はベッドを除けて床にカーペットを敷き過ごされている方もいます。</p> <p>(外部評価) ソファや机、テレビを置き、家族の写真や思い出の手作りの品等を飾るなど、利用者一人ひとり趣のある居室となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 自室前には写真や名札を掲示し自室の理解を得ている。</p>	